

## トランプ：泥沼をうまくあしらう知能的勝者

【訳者注】初めに断っておくと、これはこの数倍ある長い論文（SOTN に引用されている）から、冒頭と、中ほどの一部を抜粋したものである。ここでは特にヒラリー・クリントンをめぐる、“泥沼”的犯罪と腐敗の実態を論じている。大多数の人は、なんとなくそう思っていたが、やはりそうだったかと、胸がすく思いがするだろう。また、こういう論じ方に胸がすくという人もあるだろう。やはり、歴然たる犯罪を犯罪と呼び、“泥沼”は泥沼と呼ばなければ、我々は満足できない。いつか、シリアの報道されない真実を知った女性記者が、吐き出すように「デスパカブル」（ピにアクセント、卑劣な）と言っているのを、ここで紹介した。この言葉でなければ伝わらない真実がある。トランプが敵として対面している世界が、そのような世界であることを無視して、トランプがやることを失態として批判し、愚かな男と呼んでも、真実は全く伝わらない。ここに紹介している“記者会見”ほど面白い話はないのに、メディアはこれを紹介しない。なんと無粋な人々よ！

Joseph Zrnchick (第5 権力メディアのために)

December 26, 2017

私が以前に書いた記事では、メディアがいかに政治的な議論を台無しにしているか、その理由は彼らが、アメリカ人民に対してニセ情報キャンペーンを命ずる、グローバリストや大企業の、プロパガンダ係りに成り下がってしまったからだ、ということを論じた。実際、私がトランプに投票したのは、特に、彼が政治とメディアの両体制に、挑戦する意欲を持ち、それができることを証明したからだった。いま私には、トランプが、歴史上のこの時期、この場所で、最適の人物であることが、はっきり見える。

トランプは、そのエゴを批判されているが、この種のエゴは、深層国家と、それを言われるまま実行する者、そしてそのゴマすりメディアに、立ち向かって、これを敗北させるのに、どうしても必要なものと、私は考えている。トランプのエゴは、あまりにも大きいので、しばしば、彼の才能、鋭さ、それに狡知が、彼の敵によって過小評価されており、それは、彼ら自身のエゴイズムと、トランプが挑戦の姿勢を崩さないことに証明される、しつこさと勇気に対する、嫉妬半分の無視からきている。

すべての民主党員は、トランプが仲間の共和党候補を、ベンチにどっかり座っているとして、

こき下ろしたのを笑ったものだった。彼らは、トランプが総選挙では、彼が予備選挙で共和  
党陣営をやっつけたくらいに見事に、自己崩壊するだろうと高をくくっていた。

オバマは、トランプは絶対に大統領になれないだろうと言って、嘲笑した。そしてトランプ  
が、ヒラリーを決定的に打ち破るために、ヒラリーと民主党が選挙につき込んだ金額に比べ、  
ほんのわずかしか使わなかったことを、共和党の乱れだとして笑った。オバマは「彼女が誰  
だろうと」次の大統領を支持すると約束した。オバマはまた、トランプを嘲笑して、「選挙  
をハックするなんて不可能だ」と言い、「まともで信頼できるどんな人間も」そんなこと（ハ  
ッキングの可能性）を、言いさえしないだろうと言った。オバマは、トランプに向って更に  
忠告し、泣くのはやめて、選挙運動に励めと言った。

CNNはそのとき、選挙の4週間も前に、トランプの選出の道はふさがれていると放送しつ  
づけ、アメリカ国民に、ヒラリーは95%の確率で勝つだろうと言いつづけた。彼らは、この  
国の誰もが、それが嘘であることを知るまで、そのせりふを維持した。

オバマはまた、トランプは弱い人間で、仕事をこなせるほどタフではないと言った。しかし、  
トランプは、自分が仕事をこなせるほどタフであるばかりでなく、NSA、CIA、FBI、DOJ、  
国務省、ペンタゴン、グローバリスト、DNC、RNC、メディア、それにオバマ-クリント  
ン犯罪カルテルを相手にすることができ、楽しんでそうしていることが判明した。のみなら  
ず、トランプは、彼ら自身のゲームで彼らを打ちのめす、知能と狡知をもっていることを、  
何度も繰り返し証明した。

選挙に敗北後、ヒラリーは、ほとんどのアメリカ人が、彼女のことを、不正を働く、ウソつ  
きの、サイコパスとして知っているという事実を、受け入れねばならぬ、つらい日々を過ご  
した。彼女は自分の敗北を認めることができないだけでなく、司法省やFBIに残っていた  
オバマの余力を利用して、トランプに対する裏切りのプロパガンダ運動を起こして、敗れか  
ぶれの戦術を取る意欲を示した。そのバックファイアが、あまりにも激しく彼女に返ってき  
たので、ほとんどの人びとは、そこに暴かれた事実を、単なるアイロニーで馬鹿々々しい、  
いたずらと考え、それは政治的で法的な自己犠牲の、幼稚でシニカルな演出にしか思えな  
かった。歴史上、最も道を外れた、邪悪な人間といえども、これほどひどい策をめぐらしたこ  
とはない。

ちょっと考えてみてほしい。トランプは深層国家を暴き出し、そこに露骨な不信の目を向け  
たので、FBIも司法省も、現在は裸にされて、目のある人には見えていた、腐敗した、政治  
化された、虐待を行う、党派的で無能の組織であることがわかった。いくらかでも理解でき  
る人たちは、FBIがどういふものか常に知っていた——それは Peter Strzok や Andrew

McCabe の個人的なあり方が、すなわち FBI の組織的なあり方だということ、つまり、強権を振り回し、傲慢で、ほとんどわけのわからない、愚かな存在だということ。

Trey Gowdy でさえ司法省や FBI をほめる一方で、我々の側には、FBI が Kenneth Trentadue を、人違いによって拷問し殺し、Eric Holder によって隠ぺいされたという事件を、覚えている人々もいる。すべての記録や証拠は削られ、破壊されて、裁判は組織的に妨害された。そのような憲法の無視、誓約破り、証拠いじり、裁判の妨害は、FBI にとって新しいことではない——拷問や殺人は言うに及ばず。FBI にとって不幸なことに、彼らは、この度ばかりは、料理する相手を間違った。この男は彼らを屍とも思わなかった。

党派的な FBI の役人たちは、クリントン E メール・スキャンダルの裁きを妨害することができるだけでは、満足しなかった。そこでは何万という E メールが、いくつかの Blackberry 電話や、コンピューターのハードドライブと共に、破壊されたが、それでも足らず、彼らは、クリントンの選挙の勝利を邪魔するどんな者も、政治的・法的に亡き者にする権力を求めた。

ヒラリー・クリントンが国務長官をやっていたとき、クリントン財団は、文字通り、何十億ドルというカネを掻き集めた。国務省はそのとき、クリントンが、見返りを明らかに証明するすべての E メールやスケジュール、また、寄付者とそれを受け取る国務省の行動を証明するすべてを、破壊しているのを黙認した。

国務省がそうしただけでなく、司法省や FBI も、ある証人に口止めを指令して、わいろや、マネー洗浄や、不正利益や、ゆすりを、議会が知ることがないようにした。それらはすべて、クリントン財団が得た 1 億 5,000 万ドルと関わるもので、ヒラリーの国務省の認めたところでは、「ウラニウム・ワン」(現在はロシア政府所有の、カナダに本社のある採掘企業)が、Rosatom というプーチン配下の企業に購入され、アメリカの保有するウラニウム量の 20% が、プーチンの手に渡ることになった。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171101.pdf>

ヒラリーがオバマに対して、クリントン財団は国務省を離れると約束した後、財団は 20 億近くを集め続け、寄付者は、武器取引、有利な法制化、特別のアクセス、均衡した取引などの恩恵を受けた。クリントンが力を失った現在、この財団への寄付はほとんどなくなり、それはほとんど存在していない。

どうやら司法省と FBI は、政治的な動機による起訴や、裁判の妨害には当たるが、ヒラリーのグローバルな、ほしいままの犯罪は、隠したまま、続けさせようとする意図のようだ。

.....

トランプ大統領が、自分はスパイされていると声明で述べたとき、メディアは3週間に及ぶ、トランプ不信を煽る、ニセ情報キャンペーンを行った。しかしまたしても、誰の、どんな途方もない予想も当たらず、彼が正しいことがわかった。

主流メディアは完全に正気をなくしている。彼らは、クリントンやその取り巻き、オバマ政権の残兵による、最も明らかな不正行為についてさえ、報道を拒否し、この者たちがメディアにニセ情報を漏らすことによって、大統領職を篡奪しようとするのを、公然と取り上げている。一方、後に、誰にでもわかったことだが、FBIも司法省も、記録文書を隠し、その存在についてウソをついていた。そのどれだけが、主流メディアに指摘されただろうか？ 皆無である。

メディアがひどく反トランプである一方、しばしばトランプは、それを自分に有利に利用するだけの抜け目なさを示している。トランプがメディアに、間抜け面をさらさせた、この上ない滑稽な例は、彼がオバマの市民権について声明を発表したいと、記者会見を要求したときだった。メディアはそれに、丸ごと見事に引っかかった。メディアが、彼がたくさんのオバマ偽物説を聞いて信じていることを、笑いものにしようとしていることを利用して、トランプはこう言った――私は、オバマは正当な市民だと信じている。これはすべての人々に正確に言うておかねばならない。オバマの市民権問題は、実はヒラリーから出たもので、彼女がオバマの対抗馬として予備選挙に立ったときに、彼女が言ったことなのです。いや皆さん、おいでいただいてどうもありがとう――。メディアはぼかんと口を開けて、トランプに演じさせようと思った馬鹿を、自分たちが演ずることになった。これがトランプの古典的なメディア対処法である。

現在の状況では、FBI内部のクリントン陰謀団は、完全に暴かれている。トランプは今、Jeff Sessions に対して、この監察官閣下が確認し、さらに調査していることに基づいて、FBIによる調査を開始するよう命令することができる。トランプは今、様々な監視委員会をもって、議会侮辱罪のもとに、彼らの質問に対する、ごまかすような、不明瞭な返答ではない返答を要求している。明らかにされるべきことは、この大失態全体が、クリントン、オバマ、冒しがたい地位を与えられた深層国家役人、それにメディアというグローバリストの道具によって、いかに犯罪的に企まれたかということである。クリントンの企んだ書類一式は、彼女のサイコパス従僕たちによって、調査を開始するのに用いられたが、それは一年間の努力と何百万ドルという浪費のあげくの果て、何の成果もそこから得られなかった。・・・

――以上

